

◆主題名

分かり合うために必要なこと

内容項目	B	9	相互理解・寛容
価値項目	1・2・③・4		それぞれの個性や立場を尊重する

本時のねらい

相手の状況や、性格などを十分に理解して、言葉や行動を考える態度を育てる。

Link

中心となる発問を主題とつなげるために、どんな発問をしておけばよいだろうか。

- ①「ある中学生のLINE」のやりとりを見て、自分がこのLINEを送られてきたら気になる？気にならない？
- ② 笹岡さんに声をかけたとき、コトコはどんなことを思っていたのだろう？
- ③ コトコに声をかけられたとき、笹岡さんはどう思っていたのだろう？
- ④ 田島さんと話していた時のコトコは、何を思っていたのだろう？

◆テーマ (中心となる発問)

マサシのおかげで、コトコは何に気づいたのだろうか。

ねらいとする価値に迫るために

学び合い活動	場面発問①	場面発問②	場面発問③	中心となる発問
◆学び合い活動のねらい	なぜ学び合う活動をさせるのか、その意図を明確に。			
	変容をねらう	多様さに気付かせる	自分の考えを深めたり広げたりする	
	その他()			
学び合う活動のねらいを達成するための手立て	1 心情円盤 2 ネームプレート 3 付箋紙 4 心のものさし 5 ICT 6 その他			
学び合う活動のスタイル	1 フリー 2 ペア 3 グループ 4 その他()			

◆最後の振り返り

この時間を通しての「本音」が聞けるように！

【留意点・板書等】

【授業後の反省】

1～2回目の授業では、最後の感想に「良かれと欲していたことが、相手にとっては嫌に感じることもあるから、考えて関わらなければならない」と教科書に出てくる文言を使って書く生徒が多く、自分の感じたままを書くことが出来ていないと感じていた。
3回目では、中心発問の考えをいくつか共有した後に、教師が説諭をしすぎないように心がけた。今までに比べ、教科書からことばを拾う生徒が減ったように思われた。